

東京大学経済学図書館所蔵資料のデジタルデータについて

- (1) この画像データは、東京大学経済学図書館が所蔵する資料のうち、有価証券報告書をデジタル撮影したものです。
- (2) 利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化により、一部、文字の写りが悪いものを含んでいます。また、一部、オンライン公開に適さないと判断し、墨消処理した部分があります。
- (5) この画像データに関する質問等は東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。

連 結 財 務 諸 表

(昭和54年6月29日提出の証券取引法)
(第24条第3項に基づく報告書の添付書類)

連結会計年度 自 昭和53年4月 1日

至 昭和54年3月31日

大 蔵 大 臣 殿

昭和54年7月27日 提出

会 社 名 森 永 乳 業 株式会社
英 訳 名 Morinaga Milk Industry Co., Ltd.

代表者の役職氏名 取締役社長 門 前 貢



本店の所在の場所 東京都港区芝5丁目33番1号 電話番号 東京(456)0111(大代表)

連絡者 管理部経理担当 中 本 康 夫

もよりの連絡場所 同 上 電話番号 同 上

連絡者 同 上

連結財務諸表の作成基準

1. 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づき作成している。

2. 監査法人の監査証明

昭和53年4月1日から昭和54年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表については、証券取引法第193条の2の規定に基づき、監査法人第一監査事務所の監査を受け、別紙のとおり監査報告書を受領した。

監 査 報 告 書

森 永 乳 業 株 式 会 社

取締役社長 門 前 貢 殿

作 成 日 昭和54年7月20日

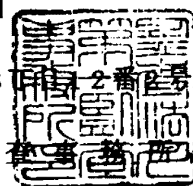
事務所所在地 東京都中央区日本橋3丁目2番2号 朝日ビル4階

監査法人の名称 監査法人 第一監査

代表社員 公認会計士

関与社員 公認会計士

電話番号 東京 271-2841



橋 本 二 郎
鈴木 豊 明



当監査法人は、証券取引法第193条の2に基づく監査証明を行うため、以下に掲げられている森永乳業株式会社の昭和53年4月1日から昭和54年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち連結貸借対照表、連結損益計算書及び連結剰余金計算書について監査を行った。

この監査に当って、当監査法人は、一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠し、通常実施すべき監査手続を実施した。

監査の結果、連結財務諸表について会社の採用する会計処理の原則及び手続は、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠し、かつ、前連結会計年度と同一の基準に従って継続して適用されており、また、連結財務諸表の表示方法は「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)の定めるところに準拠しているものと認められた。

よって、当監査法人は、上記の連結財務諸表が、森永乳業株式会社及び連結子会社の昭和54年3月31日の財政状態及び同日をもって終了する連結会計年度の経営成績を適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人または関与社員との間には、公認会計士法により記載すべき利害関係はない。

以 上

1. 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度 昭和53年3月31日			当連結会計年度 昭和54年3月31日		
	金 額	比 率	%	金 額	比 率	%
(資産の部)						
I 流動資産						
1. 現金及び預金	10,614			11,207		
2. 受取手形及び売掛金 ※1	25,054			25,542		
3. 非連結子会社及び関連会社 受取手形及び売掛金	4,968			5,954		
4. たな卸資産	18,019			16,706		
5. その他の流動資産	2,361			2,215		
6. 非連結子会社及び関連会社 その他の流動資産	1,328			833		
流動資産計	62,344			62,457		
貸倒引当金	△ 500			△ 506		
流動資産合計	61,844	57.7		61,951	56.6	
II 固定資産						
(1) 有形固定資産 ※2						
1. 建物及び構築物	16,542			17,994		
減価償却引当金	△ 7,552	8,990		△ 8,245	9,749	
2. 機械装置	30,605			35,257		
減価償却引当金	△ 23,683	6,922		△ 25,495	9,762	
3. 車輛運搬具及び工具器具備品	4,979			2,622		
減価償却引当金	△ 3,435	1,544		△ 1,808	814	
4. 土地		9,132			9,134	
5. 建設仮勘定		3,581			2,712	
有形固定資産合計	30,169	(28.2)		32,171	(29.4)	
(2) 無形固定資産						
1. その他の無形固定資産	116			125		
無形固定資産合計	116	(0.1)		125	(0.1)	
(3) 投資その他の資産						
1. 投資有価証券 ※3	1,953			2,210		
2. 非連結子会社及び関連会社 株 式	2,879			1,394		
3. 長期貸付金	2,039			2,242		
4. 非連結子会社及び関連会社 長期貸付金	1,828			1,623		
5. 長期前払費用	841			1,948		
6. その他の投資その他の資産	5,591			5,858		
投資その他の資産計	15,131			15,275		
貸倒引当金	△ 130			△ 130		
投資その他の資産合計	15,001	(14.0)		15,145	(13.8)	
固定資産合計	45,286	42.3		47,441	43.3	
III 繰延資産						
1. 社債発行差金	27			21		
2. 開 発 費	0			100		
繰延資産合計	27	0.0		121	0.1	
資 産 合 計	107,157	100		109,513	100	

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度 昭和53年3月31日			当連結会計年度 昭和54年3月31日		
	金 額	比 率		金 額	比 率	
(負 債 の 部)		%			%	
I 流 動 負 債						
1. 支払手形及び買掛金	25,527			26,767		
2. 非連結子会社及び関連会社 に対する支払手形及び買掛金	4,133			4,089		
3. 短期借入金	22,746			22,559		
4. 一年以内償還予定社債	760			284		
5. 一年以内返済予定長期借入金	3,273			2,435		
6. 未払費用	3,895			5,216		
7. 法人税及び住民税引当金	55			1,562		
8. 事業税引当金	82			398		
9. 賞与引当金	2,622			2,884		
10. その他の流動負債	7,657			7,061		
流動負債合計	70,750	66.0		73,255	66.9	
II 固 定 負 債						
1. 社 債	4,944			4,660		
2. 長期借入金	6,037			5,476		
3. 退職給与引当金	9,333			10,228		
固定負債合計	20,314	19.0		20,364	18.6	
III 特 定 引 当 金						
1. 価格変動準備金	408			338		
特定引当金合計	408	0.4		338	0.3	
IV 少数株主持分	11	0.0		13	0.0	
負債合計	91,483	85.4		93,970	85.8	
(資 本 の 部)						
I 資 本 金	6,000	5.6		6,000	5.5	
II 資 本 準 備 金	738	0.7		739	0.7	
III 利 益 準 備 金	981	0.9		1,018	0.9	
IV その他の剰余金	7,955	7.4		7,786	7.1	
資 本 合 計	15,674	14.6		15,543	14.2	
負債資本合計	107,157	100		109,513	100	

脚 注

前 連 結 会 計 年 度	当 連 結 会 計 年 度
※ 1. 受取手形割引高は 1,242 百万円である。 ※ 2. 有形固定資産のうち簿価 13,418 百万円は工場財団等として、社債 5,704 百万円、長期借入金 6,508 百万円及び短期借入金 320 百万円の担保に供している。 ※ 3. 投資有価証券のうち 391 百万円は長期借入金 447 百万円の担保に供している。 4. 偶 発 債 務 横浜乳業その他の銀行借入金に対し 6,537 百万円の債務保証を行っている。	※ 1. 受取手形割引高は、575 百万円である。 ※ 2. 有形固定資産のうち簿価 13,419 百万円は工場財団等として、社債 4,944 百万円、長期借入金 5,361 百万円及び短期借入金 100 百万円の担保に供している。 ※ 3. 投資有価証券のうち 432 百万円は長期借入金 263 百万円の担保に供している。 4. 偶 発 債 務 横浜乳業その他の銀行借入金に対し 4,368 百万円の債務保証を行っている。

2. 連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度 (自 昭和52年4月1日 至 昭和53年3月31日)			当連結会計年度 (自 昭和53年4月1日 至 昭和54年3月31日)		
	金 額	比 率		金 額	比 率	
I 売 上 高		233,548	100%		245,920	100%
II 売 上 原 価		191,504	82.0		198,653	80.8
売 上 総 利 益		42,044	18.0		47,267	19.2
III 販売費及び一般管理費 ※1						
1. 販 売 費	34,202			36,632		
2. 一 般 管 理 費	5,797	39,999	17.1	6,545	43,177	17.6
営 業 利 益		2,045	0.9		4,090	1.6
IV 営業外収益						
1. 受取利息及び割引料	1,192			936		
2. 受 取 配 当 金	117			120		
3. 社宅料及び賃貸料	209			211		
4. 原材料等仕入値引割戻し	294			346		
5. その他の営業外収益	299	2,111	0.9	409	2,022	0.8
V 営業外費用						
1. 支払利息及び割引料	2,723			2,115		
2. 社 債 利 息	345			430		
3. たな卸資産処分損	107			533		
4. その他の営業外費用	127	3,302	1.4	73	3,151	1.2
経 常 利 益		854	0.4		2,961	1.2
VI 特 別 利 益						
1. 固定資産売却益	1,226			1,170		
2. その他の特別利益	3	1,229	0.5	9	1,179	0.5
VII 特 別 損 失						
1. 固定資産処分損	88			65		
2. 固定資産圧縮損	0			534		
3. (財)ひかり協会負担金	628			687		
4. その他の特別損失	7	723	0.3	8	1,294	0.5
税金等調整前当期純利益		1,360	0.6		2,846	1.2
VIII 特定引当金戻入額						
1. 価格変動準備金戻入額	0			75		
2. 海外市場開拓準備金戻入額	2	2	0.0	0	75	0.0
IX 特定引当金繰入額						
1. 価格変動準備金繰入額		5	0.0		4	0.0
税金等調整前当期利益		1,357	0.6		2,917	1.2
法人税及び住民税額		831	0.4		2,049	0.8
少 数 株 主 利 益		1	0.0		2	0.0
当 期 利 益		525	0.2		866	0.4

脚 注

前 連 結 会 計 年 度	当 連 結 会 計 年 度
※ 1. 販売費及び一般管理費の内、主要なものは次のとおりである。 (1) 販 売 費 拡 売 費 18,522 百万円 従業員給料・賞与 6,410 百万円 (2) 一般管理費 従業員給料・賞与 2,332 百万円 2. 引当金繰入額は次のとおりである。 貸倒引当金繰入額 143 百万円 法人税及び住民税引当金繰入額 831 百万円 事業税引当金繰入額 262 百万円 賞与引当金繰入額 2,622 百万円 退職給与引当金繰入額 1,417 百万円	※ 1. 販売費及び一般管理費の内、主要なものは次のとおりである。 (1) 販 売 費 拡 売 費 20,406 百万円 従業員給料・賞与 6,781 百万円 (2) 一般管理費 従業員給料・賞与 2,628 百万円 2. 引当金繰入額は次のとおりである。 貸倒引当金繰入額 17 百万円 法人税及び住民税引当金繰入額 2,049 百万円 事業税引当金繰入額 516 百万円 賞与引当金繰入額 2,884 百万円 退職給与引当金繰入額 1,355 百万円

3. 連結剰余金計算書

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度 (自 昭和52年4月 1日 至 昭和53年3月31日)		当連結会計年度 (自 昭和53年4月 1日 至 昭和54年3月31日)	
	金 額		金 額	
I その他の剰余金期首残高		7,965		7,955
II その他の剰余金減少高				
1. 利益準備金繰入額	49		37	
2. 配 当 金	480		360	
3. 役 員 賞 与	6		7	
4. 新連結子会社 期首その他の剰余金	0	535	631	1,035
III 当 期 利 益		525		866
IV その他の剰余金期末残高		7,955		7,786

I 連結会計方針に関する事項

1. 連結の範囲に関する事項

当連結財務諸表に含まれた連結子会社名は次のとおりである。

昭和53年3月31日現在……………東洋乳業㈱、日本製乳㈱の2社。

昭和54年3月31日現在……………東洋乳業㈱、日本製乳㈱、エムケーチーズ㈱の3社。

非連結子会社12社はその合算総資産、合算売上高のいずれも10%以下であり、連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていない。

なお、従来非連結子会社扱されていたエムケーチーズ㈱は相対的重要性が増大し、当連結会計年度より連結子会社に含まれている。

2. 持分法の適用に関する事項

「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)附則2により、非連結子会社(12社)および関連会社(39社)に対する投資については持分法を適用せず原価法により評価している。

主要な非連結子会社は森永北陸乳業㈱以下2社、主要な関連会社は横浜乳業㈱以下3社である。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、エムケーチーズ㈱の決算日は12月31日であるが、当連結財務諸表の作成に当っては、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用した。

4. 会計処理基準に関する事項

- (1) たな卸資産の評価基準は、製品、商品、半製品は総平均法により、仕掛品、原材料、貯蔵品は移動平均法による原価法によっている。
- (2) 有形固定資産の減価償却方法は主として定率法によっている。
- (3) 投資有価証券の評価基準は移動平均法による原価法によっている。
- (4) 事業税の計上基準は主として発生基準によっている。
- (5) 退職給与引当金の計上基準は主として税法の規定に基づく期末要支給額を基礎とする現価方式である。

5. 投資勘定と資本勘定の相殺消去

親会社投資勘定と子会社資本勘定の相殺消去は、連結初年度(当期新たに連結子会社となった、エムケーチーズ㈱については当連結会計年度)の期首日を“みなし取得日”とする一括法によっているが、この結果は各取得日を基準とする段階法によった場合と大差ないと考えられる。

なお、前期の連結子会社2社については、連結子会社に発生する連結投資消去差額はその原因を分析せず、その他の剰余金一期首残高に負担させる方法を取り、当期新たに連結子会社となったエムケーチーズ㈱に発生する連結投資消去差額はその原因を分析せず、その全額をその他の剰余金減少高に負担させている。

6. 未実現損益の消去に関する事項

連結会社間の資産の売買に伴う未実現損益はすべて全額消去し、少数株主持分に対応する部分は少数株主持分より控除している。

減価償却資産については取引も僅少であり未実現損益は発生していない。

7. 利益処分項目等の取扱いに関する事項

連結剰余金計算書は、連結会社の利益金処分について連結会計年度中に確定した利益処分に基づいて作成されている。

連結子会社の利益準備金については、“みなし取得日”以降に発生した連結持分を連結利益準備金に含めている。

8. 法人税等の期間配分の処理に関する事項

税効果会計(法人税の期間配分の処理)は適用していない。